

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要票

作成日 平成 20 年 11 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500811
法人名	社会福祉法人 友情会
事業所名	グループホームえんじゅ
所在地	徳島県板野郡北島町北村大開5-7 (電話) 088-697-0757

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 7 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤:15人、非常勤:2人、常勤換算:すみれ8.5人 さくら7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000~36,000 円	その他の経費(月額)	共益費9,000円、その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		-	円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 22 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	芳川病院、きしの歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は静かな田園の中にあり、木のぬくもりを感じる和風の建物である。また広々とした敷地を活かして花畑や菜園のコーナーも設けられている。建物内の共用空間は明るく、中庭や外の見晴らしもよく利用者は思い思いにゆったりとくつろいで過ごしている。また、にこやかな職員の笑顔に支えられ、利用者は安心して穏やかに暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「理念の共有と日々の取り組み」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「職員を育てる取り組み」は全職員で話し合い、改善計画を立てて工夫しながら改善されている。「地域とのつきあい」については改善するまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価について話し合い、評価に対する前向きな取り組みの姿勢がうかがえる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣グループホームの管理者が参加している。討議内容は運営の状況や計画等の報告、サービスの質の向上に向けた話し合い、地域の情報を得るなど双方向的な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や配布書類への第三者委員の明記、外部の苦情相談窓口の周知など、家族が気軽に意見が伝えられるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や外出時には近所の方と気軽にあいさつを交わしている。また町の防災担当者や地元民生委員などと協力して非常食の試食や災害を想定した図上訓練、避難マップ作りなどを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、「自分らしく暮らせる」ことができる継続的な支援を目標にした独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングや申し送り時に話し合いの機会を持ち、理念を唱え、サービスの支援に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り際には御神輿が来訪したり、町の防災担当者や地元民生委員などと協力して非常食の試食や災害を想定した図上訓練、避難マップ作りを行ったりするなどの交流を図っている。運営推進会議の参加者に呼び掛けて地域の行事や近隣住民との交流につながる情報収集に努めているが、地域に密着した関係づくりには至っていない。	○	関係団体と連携を図りつつ、行事や地域活動の情報を集め、地域住民の一員として近隣の方々と馴染みの関係を構築し、交流やつきあいを更に深められることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価について話し合い、評価に対する前向きな取り組みの姿勢がうかがえる。また前回評価での課題についても改善計画を立て、全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣グループホームの管理者が参加している。討議内容は運営の状況や計画等の報告、サービスの質の向上に向けた話し合い、地域の情報を得るなど双方向的な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の入退居状況や事故報告書を提出するために窓口を訪問し、意見交換などを行いながらサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に生活状況などを報告している。また毎月1回、手紙に写真を添えて送付している。金銭管理についても説明を行い、確認印・サインがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や配布書類への第三者委員の明記、外部の苦情相談窓口の周知など、家族が気軽に意見が伝えられるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は最小限に抑える努力を行っている。やむを得ず異動がある場合は、利用者や職員の信頼関係を築くことを優先し、新しい職員の顔を早く覚えてもらえるように勤務者の顔写真を貼り出すなどの工夫を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外の研修には計画的に実施・参加している。内容は会議で報告するなど全職員が共有できる体制ができており、報告書への確認印・サインもある。また認知症を理解するための勉強会も定期的に関催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで知り合った地域の同業者と相互訪問するなどの機会を持ち、情報・意見交換を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族等に事業所を見てもらい、十分な話し合いを行うなどして納得した上で利用してもらえるよう取り組んでいる。また入居後も利用者が安心して生活できるよう、家族や知人の面会・来訪を呼び掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方から野菜作りや手芸、裁縫を教わるなど一方的な支援のみでなくお互いに協力しながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしぶりなどから、思いや希望の把握に努めている。意向の把握が困難な利用者については表情やしぐさ、態度で状況をつかんだり家族からも情報を得るなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見、日頃の関わりの中で職員が気付いた事などを盛り込んで計画を作成している。カンファレンスの記録も残され、計画書への家族のサインもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間や利用者の状態の変化に応じて随時、見直している。カンファレンスでは利用者や家族などと話し合い、同意を得て現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、訪問診療や日常的な健康管理により安心して暮らせるよう支援されている。また家族等との相談によって通院支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関に加え、利用者が希望するかかりつけ医への受診もできるよう家族と協力し、通院などを支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については看取りに関する指針を作成している。利用者や家族、関係者と共に十分に話し合い希望にそえるように努め同意書も作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法を理解し、記録などについても施錠できる場所に保管している。排泄や入浴の介助時には、利用者のプライドを傷つけない言葉づかいや支援に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	玄関の掃除、野菜作りや水やり、ラジオ体操への参加などは、一人ひとりの体調に配慮しながら利用者の望んでいるペースに合わせて支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に育てた新鮮な野菜を食材に使うことがある。また調理や盛り付け、後片付けなども一緒に行うなど食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて体調や安全面に配慮した入浴が支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	囲碁や俳句、短歌、野菜作り、花作りなど一人ひとりの生活歴や力を活かした楽しみごとや気晴らしの場面づくりがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、小学校の参観日見学などに出かけている。また広いホームの敷地を利用して庭を自由に散策したり「ゴーヤ」の水やりや手入れを行ったりするなど、利用者の希望にそって戸外に出かけられるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出ニーズがあれば、さりげなく声をかけて一緒について行くなど安全面に配慮し、日中は鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(春は昼間、秋は夜間)避難訓練を実施している。災害に備えて3日分の非常食や水などを備蓄している。町の防災担当者や地元民生委員などとは常に連携を図り、非常食の試食や災害時の図上訓練などを行い、避難マップ作りなどして地域への協力も働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録され、母体法人の栄養士からも助言を受けている。水分については食事やおやつ時、入浴後に提供したり、夜間にはペットボトルに入れて各自居室で補給してもらうなど、摂取しやすいよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居間は明るくゆったりとした広さがあり、ソファが置かれて台所で料理する音やご飯の炊ける匂いなど生活感が感じられる。利用者はテレビを見たり中庭の緑を眺めたりして思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い出の写真を飾ったり、趣味の造花を生けたりするなど、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。		